

協議事項 議事録

日時：令和5年11月21日（火） 10:00～

場所：聖籠町役場3階 第2会議室

委員出席者

近藤朗教育長・佐藤政志委員・佐久間千都委員・高橋真弓委員・高橋恵委員

事務局出席者

須貝教育未来課長・佐藤子ども教育課長・佐藤社会教育課長・渡邊図書館長
牧野係長（書記）

～教育委員会定例会終了後～

○近藤教育長

続いて、協議事項に入ります。一つ目の聖籠中学校フェンスについてであります。事前に何点か資料をお配りさせていただいておりますが、私の方から暫定的なことについて概要をお話させていただき、その後資料を踏まえて詳細にご説明させていただきます。

配付資料の最初は、2022年6月議会でのある議員からご質問がありましたので、それに対する私の答弁した内容を整理してあります。答弁では、「防御」「抑止」「対応」が必要と答弁し、防御としては2点、安全対策上の問題についての再確認を行い、適切に学校管理に取り組んでまいりたいと考えております。ということと、以前から小学校や幼稚園を含めて玄関のオートロック化について検討しておりますので、取り組みを進めてまいりたいと考えております。ということをお答弁させていただきました。

抑止としては、防犯カメラの設置が有効であると考えております。

対応としては、今後においても訓練内容を充実させながら検証するよう指示してまいります。ということで答弁しております。

このように、安全対策上の問題について再確認を行うとともに、玄関のオートロック化、防犯カメラの設置、避難訓練の充実と検証など取り組みを総合的に行い、安全対策を講じていきたいと考えております。

物的対策としては、玄関のオートロック化、防犯カメラの設置はすでに対応済みであります。運営対策といたしましては、避難訓練の充実、これはもう学校の方に依頼してありますし、春に担当の方で確認してあります。人的対策としては、スクールガード・リーダーの配置を検討しております。可能であれば来年度から導入していきたいと考えております。というようなことで、物的・人的対策を講じているところであります。

<以下、資料内容概要を説明>

・過去の全国における学校施設侵入事件発生状況

- ・平成14年学校施設の安全管理に関する調査研究協力者会議・文部科学省資料
- ・平成15年文部科学省「防犯対策の基本的事項」
- ・平成16年文部科学省「防犯対策に係る基本的な考え方」

国としては、「地域に開かれた学校施設とは、不審者に対して何の備えもなく空間が開かれていることを意味するものではなく、児童生徒等の安全をまず第一に確保しつつ開かれた学校施設づくりを推進していくことが重要である。」という風に見解が示されているわけであります。

- ・平成17年文部科学省「門等における不審者侵入防止の対策事例」

国としては、門における対策、敷地内における対策、受付等における対策を図る必要があるということで方向性を定めております。以下、資料の中では文科省が示す例であります。

- ・大阪教育大付属池田小学校児童殺傷事件の概要と教訓

このような経緯の中で、聖籠中学校は建築後、現在に至っているわけですが、フェンスが必要なのではないかというご意見をいただいている段階でございます。このような流れの中で、皆さんからご意見をお聞きしていきたいと考えております。

○佐藤子ども教育課長

事前配布資料「フェンス設置状況調査」について補足説明。校舎外周にフェンス設置なしと回答しているものの中で、樹木で外周を囲っている事例あり。学校周辺に山があってフェンス代わりになっているものなどあり。その中の一部は校舎裏手には植栽等もなしの学校があります。そのような状況の中でフェンスなしという回答が半数です。全体の傾向としては、新潟市内では校舎全周フェンスされている学校がほとんどであり、新潟市外ではフェンスなしが多い。

また、聖籠中学校にフェンス設置された場合も概算見積額は約3,300万円でした。このうち、補助金が7分の2補助されます。前年に県に要望を挙げて採択されれば翌年に実施されますので、最短で令和6年度の申請で7年度着工となります。概算の見積については、フェンス全周設置と門扉をつけるという内容のものであります。

○近藤教育長

ここまで説明がありましたが、個人的な意見でも構いませんので、聖籠中学校のフェンスの在り方についてお聞かせいただきたいと思っております。高橋恵委員さん、いかがですか。

○高橋（恵）委員

フェンスを設置することによって犯罪抑止効果がどれだけあったのかを考えたのですが、（不審者は）フェンスを越えていたりして、フェンスの有無に関係ないのかな、と感じました。見晴らしがいい聖籠中学校の、死角があまりないことの方が逆に良い部分が多いのではないかと感じました。

○近藤教育長

まずはお考えご意見を順にお聞きしていきます。

○高橋（真）委員

フェンスを立てるにあたって、野球部が今年県で優勝して強かったのも、生徒達がどう思うかな、ということをおもいました。また、見積のフェンス設置個所にふるさとの森が入る感じではなかったのも、森に行けなくなるのかな、とおもいました。地域との関わりや風景は大事にしたい。

○佐久間委員

いろんな中学校の事例がありますけれど、一部フェンスが抜けてたり、正門のところがないというのは意味がないかな、と感じます。どちらかというとも小学校の方が危険度が高い気がするも、中学校はまだいいかな、とおもいます。防犯カメラ等の使用で足りるのではないかとおもいます。

○佐藤委員

大儀としては、フェンスは外部からの侵入を防ぐという前提に立っているとおもいます。不審者がいないという保障はないので、それを考えれば、フェンスがあった方がいいうのが大前提なのですが、じゃあ門付けましようとおもって皆さんがすんないかない理由は何なのかをずっと考えていたのですが。

一つは費用対効果の問題があるかとおもいます。本当に侵入できないように、よじ登れないようにしなければいけないので、そうすると2メートルくらいにして、完全に囲われた状態の刑務所じゃないですけど、ものすごい圧迫感のある空間になってしまう。でもフェンスがあることによつて心的な囲いにはなることは間違いない。

デメリットとしてお金がかかることと、なんか恰好悪いな、とか、開かれた学校でいい校舎なのに、囲いで囲むと印象としてよろしくないかとおもいます。つまりお金と印象のデメリットと子ども達の安全を守るためのフェンス設置とのせめぎ合いになっているのではないかとおもいます。

今後、不審者がいないという保障はないわけですから、今後何年かかけて何千万という費用をかけて設置するならば計画立てて実施するべきではないかとおもいます。

○近藤教育長

皆さんからいろいろご意見をいただいたわけですが、無いよりはあった方がいいだろうということかなとおもいます。フェンスがないことで、何の防備もしていなかったんだらうというご指摘を受けることになりかねないわけですよ。ただ、国の方も、学校というものは地域の方が足を運んでいただける場所という考え方をしっかり持っています。そして文化の象徴でもありますので、見栄えというものも大事なんですと言っているのです。そういうことを言っておきながら、囲障をしっかりとないさいということも言っていて、そここのところがうまく整理できないんだとおもいますね、感覚的に。

私が指導主事であった平成の16～17年あたり、あの頃はまさに門扉を閉めなさいと

小学校に回っていました。中学校はどうしようもないから、何もしませんでしたし、フェンスの話も何にも出ていなかったですし、中学生ですからという意識もあった。ただ、小学校は門を閉じなさいということ、チェーンをした。チェーンをしたのですが、私が異動していなくなった数年後、ぶらりとしたこの辺の学校を回って見たところ、チェーンは外されていた。ではなんでチェーンは外されていたのかというと、保護者の意見やいろいろな意見があるのだろうか、と考えました。

実際に保護者の方々が車で学校に集まる際に、門にチェーンがかかっていると、どう思いますか。小学校の門にフェンスがあるということを考えてときに、どう思うかな、ということです。フェンスのことを考えたときに、門を閉じなければ何の意味もないわけです。大阪（池田小）は、門が開いてたから入ったわけです。だから、門のことについて現在進行形の保護者の皆様はどう思うかな、思うわけです。

○高橋（恵）委員

こども園とかだと子どもの飛び出しがあったりするから、何時以降だと保護者は暗証番号を入れて門を開けてもらって入りますが、小学校については、そういう状況になったことはがないので、もしそういうことになったら、すごく入りづらい感じになるかと思います。閉鎖的な感覚を受けます。

○近藤教育長

私が校長をしていた学校は、駐車場がないので、保護者や地域の皆さんは歩いて学校に来るわけです。なので、玄関だけガチッと鍵をかけておけば、問題も不都合がなかったです。保護者の方や地域の方が日々たくさん来る学校だったんです。でも、玄関のところはオートロックで閉めてあって、ピンポンを鳴らしてもらって、中から開ける。顔を見てから開ける。そのようにやってて、何ら困ることはなかったんです。ただ、それは街中の駐車場がない学校で、みんなが歩いてくる学校だったからよかったんです。聖籠町では、たいがい広い駐車場があって、保護者の方や地域の方が車で来るのが当たり前になっているわけじゃないですか。だから私が指導主事したときは、地域の方や保護者の方にしてみれば不評だったと思いますよ。だから現実的にどうかということをおね、考えないと。

○高橋（真）委員

忘れ物を届ける際に門が閉まっていると、山倉の場合が路駐して学校に電話しないといけないと思うんですね。それは不便ですね。

○近藤教育長

不便さを感じるようなところだと、良くないと国も言っているわけで、それじゃあどうするんだということなんです。佐久間委員さんも学校によく行かれるじゃないですか、どんなお考えですか。

○佐久間委員

山倉小学校がインターフォンを押して、玄関を開けてもらうのに対して、聖籠中学校が生徒玄関から自由に入れてしまうので、私はそっちから行ったりしますけど

も、やはりインターフォンを押してから入るとするのは不便に感じます。

○高橋（真）委員

聖籠中学校の玄関について質問なのですが、地域交流棟の方にも玄関がありますが、そこはいつ使うものなんでしょうか。そこもオートロックなんでしょうか。

○佐藤子ども教育課長

地域交流棟の玄関は今壊れておりまして、小学校のオートロックと合わせてそこも直しているところです。地域交流棟は地域の方やみらいのたねの方々が不定期に利用されているところです。

○近藤教育長

佐藤委員さんは聖籠中学校で校長をなさっていたわけですが、生徒の立場になって、教育活動をいろいろ展開していく際に、先ほど心の問題とかあったわけですが、現状と、フェンスで囲んだ場合と、またはそれを門扉で閉じた場合とで、子ども達にとって何か違いがあるものですか。

○佐藤委員

（学校の）中に生活している分には、フェンスの高さや形にもよりますが、あってもなくてもそんなに変わらないかな、とは思いますが。中には敏感な子が囲われるよりは開放的な方が当然良いわけですので、そういう傾向の子には開かれている方が・・逆に囲われている方がいいっていう子もいるかもしれませんので、あんまり子どもはどっちでもいいのかもしれませんが。

○近藤教育長

活動するのは子どもがメインですからね。

皆さんから、事務局の方にここはどうなっているのかとか、ここをもうちょっと説明してほしいというものはありますか。

○佐藤委員

国や県の方向性に従っていくのが一番順当なので、国や県は子ども達の安全を一番最優先に考えているわけですから、フェンスとか門扉とか囲障を設置した方が良いよというふうに言っているわけですが。にも関わらず、学校は開いてね、と言っているわけで。そこで私たちはどうするか、なのですが、確かにフェンスはない方が開放的で、心的にも、保護者が出入りするにしても、校地については開放的であった方が、メリットが高いのかなと思います。いつでもよじ登れるフェンスを、高いお金をかけて作るというメリットより、開放的であることの方が、心的にもメリットがあるかな、とだんだん思ってきました。その代わり、子ども達を守らなければならないので、校舎に関してディフェンスを鉄壁にしなければならないので、そこをオートロックにしても、監視カメラにしても、常時完璧にしながら、地域に開いているよ、という形の方がいいのかな、という風が変わってきつつあるのですが。

ここでは頭出しなんでしょうが、今後いろんなところから意見を収集して、最終的にはその立場の方が総合的に判断をして決めるのでしょうか、そこまでに至るプ

ロセスを明らかにして、段階を追って結論を出した方がいいかな、と思います。

○佐久間委員

何年か前に亀代小学校で防犯訓練をやっていたかと思うんですけど、今はやっているのでしょうか。不審者が入ってきたときの。

○須貝教育未来課長

毎年やっています。

○高橋（真）委員

意見なのですが、聖籠の地域性として、聖籠のおじいちゃんおばあちゃんは結構社交的で、外を歩いていると声をかけてくれるんです。犬の散歩をしていたりして、学校が開けていた方がいいのかな、と思いました。

○近藤教育長

ありがとうございます。先ほど佐藤委員がおっしゃっていたことなんですが、以前私が勤めていた学校は、向かいが知事公舎で、隣が警察で、完璧な位置にあるんです。だから周りが全部フェンスで囲われているんです。そのうえでオートロックやっていて、門扉がないんです。だから玄関前までは誰でも来れるんです。だから近所の方たちなんか、花壇のところに座って休んでいたたり、雨宿りしに入ったりするんですが、校舎の中には入れない仕組みになっているんですね。ただ、一番弱いのが先生方なんです。私が出張から帰ってきたときに玄関が開いていると、何やってるんだと、なん閉めていないんだと教務室で怒るわけですよ。だから先生方の意識をもっていくためには、かなり何度も何度も言わないと習慣付かないのが現実です。だからできる限り、カチッと中に入れたいよ、ということを私たちは努めていきたいと思うんですが。それも踏まえて、皆さんのご意見をお聞きして、それぞれがどのようにお考えかわかりましたけども、学校がどのように考えているのか、保護者の方はどのように考えているのか、また地域の方がずっと支えてくださっているわけですので、学校運営協議会がどのように考えているのか、学校に聞いてみたいと思います。明日また校園長会がありますので、そこで話題にして、小学校ではどう思うか、中学校ではどう思うかということで、それぞれ情報をいただいた段階で、また教育委員会の後でこのように協議の場を設けさせていただきたいと思います。意見ですから、様々だと思うんです。やった方がよいという意見と、やらない方がよいという意見とバラバラだと思います。これは意見がまとまらないという場合には、在り方検討委員会などの場でよくよく検討してもらって、答申をいただくという流れになっていく可能性もあるかな、ということを踏まえてやっていきたいと思います。

先ほど子ども教育課長の話にもありましたが、国の補助受けるには、来年度頭出しをして、そして7年度予算ということになるわけですね。

○佐藤子ども教育課長

そうです。早ければ、6年の5月に要望して、採択されれば7年に着工できると

いう流れです。

○近藤教育長

では5月の要望提出前までに方向性がおおよそ固まらないと補助を受けることができないということですね。

○佐藤子ども教育課長

付け加えると、この補助金は学校の屋上防水や外壁改修と同じメニューですので、どれを優先させるかという問題も出ます。例えば、フェンスを先にやるということになりますと、来年であれば蓮野小学校の外壁、屋上防水を予定していますので、それを先送りにする、そしてその後せいろう幼稚園が予定されているものとか、どんどん先送りにされると。国の予算がつけば採択されますが、それも厳しいかな、と。そのへんの優先順位の付け方について、あらかじめ計画されているものがございますので、そのへんとの調整が必要かなと思います。

○近藤教育長

わかりました。外壁なんかはそちらの方が危険性が高いと思われる方もいるかと思いますが、一気に全部はできませんので。補助金を上手に利用しながら、やっていくことが大切だと思いますので。優先順位ってというのは、町の方で決めるものですよね。聖籠中学校の安全確保については、また皆さんにご意見を聞きながら進めていきたいと思えます。

本日はたくさんご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日の一つ目の協議事項である聖籠中学校のフェンスについては、これにて終了にしたいと思います。

～終了～